



自衛隊栃木地方協力本部

宇都宮北家族会土浦駐屯地見学ツアー ～予科練の歴史を知る～



興味津々で質問攻め



約170丁の小銃・機関銃

自衛隊栃木地方協力本部宇都宮募集案内所(所長 古川3陸佐)は、6月18日(火)、宇都宮北家族会(会長・國井宮子氏)28名の土浦駐屯地研修を支援した。

土浦駐屯地は、大正10年に「霞ヶ浦海軍航空隊」として開設、昭和15年に「土浦海軍航空隊」と改称し、旧海軍のパイロットを育成するため、海軍飛行予科練習生(予科練)の教育訓練を終戦まで行っていた歴史ある駐屯地である。

研修では、土浦駐屯地の成り立ちや武器学校の任務・編成及び予科練との歩みの説明があり、その後「小火器コーナー」「屋外装備品展示」「雄翔館」の見学を行った。約170丁の小銃や機関銃、国内外の戦車が多数展示されており、その迫力に一同感心し、また予科練出身者の遺影、遺書などに参加者は深い感銘を受けていた。

駐屯地内の隊員食堂で、楽しみにしていた昼食をとり、「こんなに美味しい食事を1日3食とれるんですか?!」ととても感動していた。最後に武器学校に隣接する予科練平和記念館の見学をした。この施設は阿見町が平成22年に開館し、予科練の歴史や阿見町の戦史の記録が保存・展示されている。当時の貴重な写真や戦争体験者の証言VTR、臨場感あふれるシアター映像などを見て予科練についての認識を深めた。

参加者からは、「現在の我が国の平和の有難さを再認識し、自衛隊の必要性、今後の役割など日本を取り巻く環境について考えるきっかけになった」と語っていた。

宇都宮募集案内所は「今後も、自衛隊を常日頃支えていただいている協力団体との良好な関係を継続するため、更に信頼を得られるよう真摯に取り組んでいく」としている。

募集解禁！各駅で市街地広報を実施！

自衛隊栃木地方協力本部 足利地域事務所(所長 櫻井1陸尉)は7月1日(月)7月11日(木)の間、担当区域の各駅で隊友会足利支部、足利市自衛隊家族会、自衛官募集相談員連絡会足利支部の協力のもと、自衛官募集に関するポケットティッシュの配布を行った。

1日は足利駅及び足利市駅から始まり、11日の佐野駅まで、特に利用者が多い10駅で実施し、陸海空それぞれの制服や迷彩服を着て、約3,300名の足利、佐野市民に配布を行った。早朝に実施したこともあり、「朝からお疲れさまです！」と元気よく挨拶を返してくれる学生も多く、大勢の駅利用者にも自衛隊をアピールすることができた。

足利地域事務所は「今後も、各協力団体と連携し地域の方々にも自衛隊の魅力を発信していく」としている。



配布風景